

建築研究所ニュース



平成 24 年 10 月 1 日

10 月 4 日から建築研究所において 15 ヶ国 21 名の研修生
を迎え、約 1 年間の国際地震工学研修を開始します。

独立行政法人建築研究所では、開発途上の地震国から若い研究者や技術者を招き、通年の「国際地震工学研修」として地震学・地震工学・津波防災に関する研修を国際協力機構（以下「JICA」という。）及び政策研究大学院大学等と協力して行っています。10 月 4 日（木）午後 15 カ国 21 名の研修生を迎えて「第 53 回国際地震工学研修開講式」を JICA 筑波国際センターにおいて行い、約 1 年間の研修が始まります。

昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による甚大な被害をはじめ世界各地で頻発する地震・津波災害に鑑み、本研修の重要性は益々増大しています。特にアジアを中心とする開発の進展が著しい国々では、予防、復興を含む地震・津波防災対策を早急に構築していくことが必要です。

研修生は研修の初期の 11 月中に東日本大震災の被災地を訪れ、被害の状況や復興について学びます。また、来年 4 月には復興がほぼ完了した阪神・淡路大震災の地を訪問し、その教訓を学ぶ予定です。さらに研修の最後には、各国の抱える個別の課題に対応するための調査研究もまとめます。

この地震工学研修では、研修修了生が帰国した後、母国で地震防災・津波防災対策等の専門家として、災害被害の軽減のため活躍することが期待されています。今回の研修生を加えると、世界 80 カ国から 1,078 名の研修生を受け入れることとなり、この他 2 ヶ月程度のコースを含む全ての地震工学研修を含めると 98 カ国から計 1,601 名の研修生の参加を数えることとなります。

<参考1：開講式の日程>

第53回国際地震工学研修 開講式

日時：平成24年10月4日（木）16:00～16:30

場所：JICA筑波国際センター

（つくば市高野台3-6 Tel 029-838-1115）

<参考2：研修生の出身国名（15ヶ国）>

アルメニア、チリ(2)、中国(2)、ドミニカ共和国、
インドネシア(2)、イラン、ミャンマー(2)、ネパール、ニカラグア、
パプアニューギニア(2)、ペルー、フィリピン(2)、トルコ、
トルクメニスタン、ウガンダ（ABC順）
うち地震学・地震工学コース 17名、津波防災コース 4名

（内容及び開講式取材の問合せ先）

独立行政法人建築研究所
所 属 国際地震工学センター
管理室長
氏 名 黒 澤 肇
電 話 029-879-0678(直通)
E-mail kurosawa@kenken.go.jp

☆ ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、上記問い合わせ先へお知らせ下さい。